

# 山岳信仰の歴史と民俗を探る

講師 **鈴木 正崇** 先生

(慶應義塾大学名誉教授)

本研究所では特別講師に鈴木正崇先生をお迎えし、下記の日程で講義を開催いたします。  
どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

[時間] **15:10~16:50** (4時限目)

[場所] 総合仏教研究所 研究室1 (3号館4階)

→ **1031教室 (10号館3階)** (5/16~6/27)

- 第1回 5月 9日(木) 山岳信仰への視角
- 第2回 5月16日(木) 出羽三山—死と再生の山
- 第3回 5月23日(木) 恐山と東北の霊山—死者の魂の行方
- 第4回 5月30日(木) 富士山—日本人の心のふるさと
- 第5回 6月13日(木) 吉野と大峰—修験道の根本道場
- 第6回 6月20日(木) 木曾御嶽山—登拝講と神がかり
- 第7回 6月27日(木) 英彦山—西国での修験道の展開

## 【講義概要】

日本の国土の四分の三は山や丘陵が占め、人々は山に親しみと畏れを抱き、古くから信仰の対象としてきました。日本の山岳信仰の特徴は仏教との融合で、六世紀の仏教伝来以後、山を結節点として仏教が受容され、神仏混淆が長く続き、仏教の民俗化、民俗の仏教化が展開しました。また、鎌倉時代中期以降には、山岳信仰は修験道と呼ばれる日本独自の信仰実践を生み出しました。修験道は密教に基づいて山を曼荼羅とし山中修行で験力を身につけます。里では験力への民衆の信頼をもとに加持祈禱を行い、病氣直しや豊作祈願などの願いに応え、「野のカウンセラー」として活躍しました。しかし、明治元年(1868)の神仏分離によって、山岳信仰と修験道は大転換を強いられました。本講座では、前近代と近代の断絶を考慮しながら、日本各地の山岳信仰の歴史と民俗を紐解き、併せて日本独自の発展を遂げた修験道とは何かについて検討を加えたいと考えます。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

[https://www.tais.ac.jp/library\\_labo/sobutsu/](https://www.tais.ac.jp/library_labo/sobutsu/)

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。